

# 人間市教研

会報 No.57

発行 令和4年2月28日  
 発行者 人間市教育研究会  
 代表 会長 富井 弘



会長挨拶

人間市  
 教育研究会  
 会長  
 富井 弘

令和三年度の本会の活動も残すところわずかとなりましたが、皆様のご協力により無事に終わろうとしております。昨年度他市町では、「休会」も検討された教育研究会が、本市においては二年続けてなんとか運営できましたことに胸をなでおろすと同時に、そこから見えてきた課題の大きさを感した一年でした。

「先生方の学びを止めてはならない」という勇ましいかけ声とは裏腹に、慎重なブレーキをかけたものもありました。ここは一気呵成にとすすめたものもあれば、時期尚早とまったをかけたたり、自粛の今こそ「改革」と考えれば、時には伝統を「踏襲」と戻ったり……。

一年間本会を運営してきた中で、の課題も申し上げます。まずは有効な予算の使い方についてです。会員一人千円の会費、さらに市教委や県連合教育研究会、弘済会からの補助金で成立する本会の「費用対効果」はどうであったのか。教育の世界で効果だけを論じるのは筋違いではあるが、会員が満足する使途について考えていく必要を感じました。また、会員の世代交代が進む中、各研究部会の引継ぎについても、先達の苦労や思いを受け止め継承することは信頼される研究会の運営につながります。

結びに、人間市教育委員会教育長様をはじめ委員会の皆様、本会員の皆様、各校理事の先生方、そして各研究部長の先生方をはじめ多くの先生方に、多大なるご尽力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

## 令和三年度

### 夏季教育講演会

#### 性の多様性基礎講座

ダイバーソン代表

飯田亮瑠氏

#### 【講演要旨】性の多様性について

学校現場では、講演や学びの場を作る場所が増えていきます。研修が求められているのは、解決と予防の2つの理由からです。研修で求められるポイントは①多様な性の基本的な知識、②授業のポイント、③相談に対する対応、④子どもに対する配慮や特別支援の工夫⑤学校現場の見直しの5つです。

性の多様性を学ぶということは

①人権や多様性の尊重、②性の多様性、③性的マイノリティの人権という

順番に積み上げていくことが大事です。この性の多様性については①セクシュアリティ、②性的指向、③性自認の3つが大事なキーワードです。SO GIと言われるものです。まずは、言葉の意味を子どもたち自身で探してみることです。そして、自分が大事にしているポイントを明らかにして自分だけのアイデンティティを作ることが重要です。

性的マイノリティの人権を学ぶには、歴史を学ぶことです。差別用語にも使われてきた歴史があります。こうしたことを子どもたちが知っていることが大事です。性的マイノリティは8%前後と言われています。これはクラスや近所に1人くらい割合です。でも、身近にはいません。これは言えない空気があるからです。無意識の加害者がつくる言えない空気、これは差別や偏見がそのまま放置されているからです。

子どもたちに届ける前に、まずは大人が学び考え、話し合っておくことが大事です。その上で授業の前にしておくことは①大人が加害者から脱却しておく、②人権や多様性に関して広く動き始めておく、③逃げ道を確保しておくの3つを確認しておきます。

個別相談の対応については①傾聴する、②子どものアイデンティティを決めつけない、③アウトティング（本人の了解なく第三者にばらす）には要注意、④相手が求める情報を探して提示するの4つが大事です。

ダイバーソンの話でしたが、ぜひ学校全体で共有して多様性の知識や情報を広げてください。



# 令和三年度研究委嘱発表校

## 「楽しい授業の展開」

「できて、わかって、活かせる子」を

育てる算数科の指導

扇小学校

本校では児童が落ち着いて学習に取り組むために「楽しい」と思える授業が必要と考え、研究を進めてきた。目指す児童像として「できて、わかって、活かせる子」とし、研究主題にせまるために以下の取組を行った。

### 【研究の取組】

一 一時間の授業の充実

・ 扇小スタンダード

二 朝自習の充実

三 家庭学習の充実

四 少人数指導

五 発達段階に応じたノート指導

六 二つの視点に基づいた授業研究協議会

### 【日々の授業について】

「できね」

- ・ どの既習事項が活用できるか見通しをもたせる。
- ・ 教師が個別で支援したり、小集団で支援したり



する。

### 『わかる』

- ・ 自分の考えをペアで伝え合った
- り、全体で交流したりする。
- ・ 大切な言葉が一目でわかる板書を工夫する。



### 『活かせる』

- ・ 適切な適用問題を準備し、解く時間を用意する。
- ・ 振り返りの視点を明確にした
- り、次の時間に活かせる振り返りを共有したりする。

### 〈成果(○)と今後(●)に向けて〉

- 扇小スタンダードが教職員・子供たち共々定着し、落ち着いて授業が進められている
- 週末プリント「ふらいでい」の定着をはじめ、家庭の協力により家庭学習が習慣化し、充実が見られる。
- 中位の子を上位に、下位の子を中位に引き上げるためにも習熟度別の授業の進め方等を研究し、授業改善を図る。

## 「進んで学ぶ児童の育成」

「学ぶ楽しさを実感させる授業の実践を目指して」

狭山小学校

### 一 主題設定の理由と仮説

令和元年度の埼玉県学力・学習状況調査で、本校の正答率と、質問紙の勉強する理由として、「勉強することが楽しい、好きだから。」の項目に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合が、埼玉県や入間市と比べて、かなり低い結果となった。実際に授業を進めていく中でも、児童の学習に向かう意欲の低さを感じた。そこで、算数科の指導を中心として、児童の意欲を高めるための指導法等について研究を進めていくこととし、「自分の考えをしっかりと持ち、問題解決に向かって意欲的に解決する場を設定すれば、自ら学習する児童が育つだろう。」と「問題を解決できたことを実感する場面の設定を工夫すれば、学びに向かう力が高まるだろう。」という仮説を立てた。

### 二 取組

「一時間の授業の流れを統一した」狭山小スタンダードを実践し、児童の「やってみよう」と「できた」を増やしていくための授業実践を考え、授業

研究会を行いながら、研修を進めていった。

また、自主的に学習に取り組めるよう、「どすこいプリントチャレンジ」を始めた。自主学习プリントを進めていくことで番付がどんどん上がり、番付が上がった児童が分かるような掲示も行った。



### 三 成果(○)と課題(△)

- 教員の指導力向上につながった。
- 自力解決のときに自分の考えを保持する児童が増加した。
- 昨年度当初よりも確実に児童の学力を伸ばすことができた。
- △ 「算数が好き」「勉強が楽しい」と答える児童の割合がまだ高くないため、取り組みを継続する。



## 「主体的に学び合う児童の育成」

〈国語科・算数科を軸として〉

藤沢東小学校

### 一 主題設定の理由と仮説

本校では、児童に確かな学力を身につけさせるための授業実践を目指し「質の高い授業の実践」「授業外の学習支援策」「家庭や地域との連携」を三つ柱として研究に取り組んだ。学びのよさを味わわせるために「対話」する力を深めたいと考え、『「個人ーグループ(ペア)交流ー全体ー個人」のサイクルを確立することで対話が深まり、主体的に学び合う児童が育つのではないか。』という仮説を設定した。

### 二 研究の取組

①「チーム学年」として、教材研究を行った。「教科担当制」を行い、学年会で担当する授業案を互いに提案した。

②日々の授業・ふりかえりの充実。

【国語】単元の中で言語活動を設定し、見通しをもって学習に取り組んだ。

【算数】算数スタンダードを基にして授業を行った。(全学年)

習熟度別学習を行い、個に合った指導を行った。(三〜六年生)

【共通】ふりかえりカードを活用し、毎時間の充実を目指した。

③クラブ・委員会の時間に三・四年生を対象に補充学習「がんばりサーズデー」を実施した。

### 三 研究の成果と課題

#### 【成果】

学年間の共通理解・共通行動により、教師は自信をもって授業ができた。低学年からの積み重ねが学校全体の学力向上につながった。児童アンケートからも国語・算数が「好き」だけでなく「楽しい」と答える児童が多かった。

毎時間のふりかえり活動から、児童自身が「何ができるようになったか」「どんなことにいかせるか」等を考え、主体的に活動をすることができるようになった。

#### 【課題】

国語科・算数科を軸として、他教科でも「対話」を深める授業実践をし、学級経営の充実を図る。教師も児童も積極的にICT機器を活用できるように研修を行い、授業に生かしていく。

## 「児童が互いに認め合い、伸び伸びと自己表現できる学級と学びの土台作り」

〈算数科の学習を通して〉

高倉小学校

本校では、令和二年度・三年度、算数科の研究に取り組んできた。めざす児童像を、「自分の思いや考えを伝え合える児童」とし、次のような手立てを考え研究を進めてきた。

### 【めざす児童像に迫る手立て】

- ①自分の考えをもてるように、既習事項を全体で確認する。
- ②本時のまともに向かつて、児童の思いや多様な考えをつないでいく。
- ③振り返りでは、友達の考えや解決方法を振り返って考えたことなどを書かせる。

### 【研究の取り組み(抜粋)】

○一時間の授業の流れ「高小スタンダード」を作成し、教員の共通理解を図る。

○板書の仕方やノートの書き方の教員向けの研修を通して、どのクラスでも同じ指導ができるようにする。

○校内におもしろ算数コーナーを設置することで、算数への興味関心をもたせる。



### 【成果と課題】

高小スタンダードを意識することで、教師と児童が見通しをもてるようになり、安心して算数の学習に取り組めるようになった。また、ペア学習やグループ学習を工夫して取り入れることで、自己表現が苦手な児童も自分の考えや思いを伝えられるようになった。

今後は、タブレットの有効的な活用や人数を増やしたグループでの話し合いをより深めていけるように、研究をさらに進めていく。



# 「豊かな体験活動を通じた、

## 全教育活動における人権教育の展開」

地域の教育力と連携し、人権感覚を

醸成する教育活動の工夫

金子中学校

### 一 主題設定の理由

本校では、令和二・三年度人権教育の研究と実践に取り組み、生徒の人権感覚を育成することを目指した。その際、本校の特色とも言える地域との絆の強さを踏まえ、学校教育と地域の教育力との融合が課題解決に結び付くと考え、本テーマを設定した。

### 二 仮説

埼玉県教育委員会が示す「人権感覚育成のための9つの視点」を意図的、計画的に教育活動の中に盛り込み、地域の教育力を積極的に学校教育の中に

取り入れることで、生徒の人権感覚を育成することができらるであろう。



埼玉県教育委員会

#### 「人権感覚育成のための9つの視点」

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1 人間の尊重・価値の尊重 | 2 生命尊重      |
| 3 自己尊重の感情     | 4 共感と連帯感    |
| 5 公平・公正       | 6 多様性の尊重・共生 |
| 7 コミュニケーション能力 | 8 権利と責任     |
| 9 参加・参画       |             |

### 三 取組

#### 《手立て1》人権を意識した授業

- ・主体的・対話的で深い学びの授業の実践
- ・UDを取り入れた授業の実践
- ・ソーシャルスキルトレーニングの実践
- ・人権感覚育成プログラムの実践

#### 《手立て2》狭山茶とふれあう教育

- ・茶席体験
- ・盆点前(R2・R3は実施できず)
- ・手揉み茶体験
- ・煎茶道体験(R2は実施できず)

#### 《手立て3》地域の教育力の活用

- ・体験学習の充実
- ・まごころ交流会(R2は実施できず)
- ・学習環境の整備
- ・各種講演会の実施



### 四 成果(○)と課題(△)

○教職員の人権感覚が高まった。

○生徒と教職員の関係が良好になるだけでなく、自他の人権を大切にしようとする生徒が増えた。

△人権教育の継続的な取組が必要である。

# 落ち着いた学校生活の実現と

## 一体化した学力の向上を目指して

武蔵中学校

### 一 研究主題設定の理由

本校生徒の学力は、埼玉県学力学習状況調査において、県平均を下回っている教科が多くある。そこで、落ち着いた学校生活を実現させ、授業に集中できる環境作りを基盤に、基礎基本の定着に努め、加えて通常学級における特別支援教育の視点を授業に取り入れることで学力の向上を目指し研究を進めた。

### 二 主な取組

教職員を3つのグループに分け、より細かく研究を進めた。

#### 1 授業研究部

- ① 指導案の改善
- ・武蔵中アイデアシートの作成を作成し、その項目に合ったUDの視点を指導観及び展開に取り入れ実践した。
- ・生徒の特性と具体的な配慮を記入し、指導案に取り入れることで、支援の深化を図った。

#### 2 環境整備部

- ① 武蔵中授業統一のルール
- ・礼の統一 号令をどの教科も統一することに、生徒が授業に集中して臨めるようになった。

・机上を整理 生徒一人ひとりに机上を整理させ、物を置く位置を定めることで、どの授業にも学習に取り組みやすくした。

#### 3 データ分析部

- ① 埼玉県学力学習状況調査の結果の分析
- ・武蔵中アイデアシート(学び合い学習を日々実践することにより、数学では昨年度平均を下回っていたが、今年度は平均を大幅に上回る事ができた。(4ランクアップ)他教科も伸びが見られた。
- ・ステップアップ武蔵の取組
- ・国語、数学、英語の三教科においては、授業始めに帯学習を毎時間取り入れたことで、基礎学力の向上が見られた。

### 三 成果と課題

通常学級における特別支援教育の視点を意識した授業を行った結果、生徒にもわかりやすい授業につながった。(学力が向上した)

今後は、研究の成果を継続していき、学び合いを深める授業を展開していくことが課題である。

## 自ら学び、心豊かな生徒の育成

〈道徳教育の充実と道徳的実践力の醸成〉

向原中学校

### 一 主題設定の理由

県学力・学習状況調査質問紙の回答状況によると、本校の生徒は、自己肯定感を持つ割合が比較的低い状況が見られる。その原因として、生徒同士の深い関わりが少ないことが考えられる。そこで、本研究において、道徳科内容項目のB(8)「友情、信頼」と(9)「相互理解、寛容」の部分を中心に、道徳科の学習を通じて生徒同士の関わりを深め、自己肯定感の育成を狙うことを計画し、本研究主題を設定した。

### 二 道徳科教育で目指す生徒像

- 互いに認め合う生徒
- 思いやりのある生徒
- よりよく生きようとする生徒

### 三 研究仮説

自らの考えを持ち、対話的な学びを軸に伝え合い、考えを深める道徳科の授業を基盤とし全教育活動を通して道徳科教育の充実を図る。そのことにより、生徒同士に互い認め合い、心豊かな思いやりのある人間性、よりよく生きようとする人間

性が育まれるであろう。

### 四 手立て

- (1) 道徳科の授業改善
  - ・二分法、スケール法等、題材にあわせて、生徒の心に迫る授業の実践
- (2) 体験的活動と主体的な活動の促進
- (3) 道徳的視点に立った環境整備



### 五 成果と課題

- (1) 研究の成果
  - ・授業法の改善を通して、各題材を深く理解し、生徒がより自分のこととして道徳的価値に向き合うことができた。
  - ・道徳科教育の目標に迫ることのできる行事を設定できた。
  - ・道徳的価値を吟味し深めることにより、自己有用感・自己肯定感を感じている生徒が増えた。
- (2) 課題
  - ・道徳科の授業を通して、生徒自身が自己の生き方を考え、自身の道徳的価値観を高めることを課題とし、今後とも研修を進めていく。

## 令和二年 度 研究 委 嘱 校 (一 年 次)

学び伸びるかねこの子育成

一人一人に確かな「生きる力」を

金子小学校

### 一 主題設定の理由

本校では、学校教育目標「かしく(ね)ばりづよく(こ)ころゆたかな子」育成のため、「学力向上」「徳力向上」「体力向上」の3本を柱に学校研究に取り組んでいる。「学び伸びるかねこの子育成」一人一人に確かな「生きる力」を「研究主題とし、知・徳体のバランスの取れた児童育成を目指している。

### 二 研究の取組

日々の授業充実のために、全員が指導者を招聘して研究授業を実施し、指導力向上を図った。授業では、①丁寧で分かりやすい指導②子供が考え活躍する授業の視点で研究協議を重ねてきた。

「金子スタンダード」に沿った授業展開をすることで、学習過程を全校で統一し、どのクラスでも同じ流れで授業が展開されている。話し合いの仕方についても、「金子の学び合い」を提示することで、ただ交流するのではなく、何のために、どのように交流させるのかを明確にした。

本校独自の「検証テスト」や「がんばりタイム」を実施することで学力の向上を目指した。家庭学習の充実に向けて、自主学習ノートに取り組んだり、家庭へ啓発したりしている。

### 三 成果と課題・改善策

○「授業のスタンダード」の活用や「金子の学び合い」が、主体的対話的で深い学びを進める上で効果的であった。

○学び伸びる金子アンケートを実施したところ91%の児童が勉強は楽しいと答えており、日々の授業の充実が伺える。

○家庭学習への取り組みでは、毎日取り組む、ほぼ毎日取り組む児童が87%であった。

●タブレット端末の効果的な活用法を更に模索し、研修を重ねていく。



『読む力を高め、  
自分の考えや思いを伝える児童の育成』  
～国語科の「読み」の授業を通して～  
宮寺小学校

一 主題設定の経緯

本校では児童が落ち着いた態度で学校生活を送っている。昨年度までの三年間は、算数科の研究を行ってきた。その成果として、計算技能を中心とした基礎基本の定着を図ることができた。しかしその一方で、文章問題等の問題文を正確に読み取ることが出来ないことが課題となった。

この課題を受け、本年度より読解力の向上にむけて国語科の研究を行うこととなった。

研究主題を『読む力を高め、自分の考えや思いを伝える児童の育成～国語科の「読み」の授業を通して～』とし、児童の読解力の向上とともに教員の指導力の向上を目指して研究を進めている。

二 研究の取組

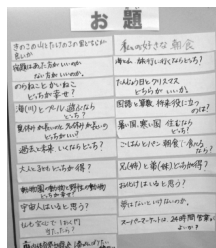
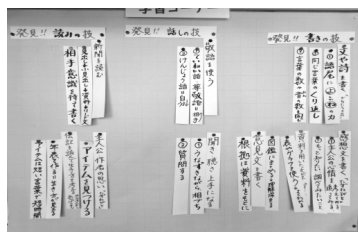
本単元・本時において、児童に学ばせたい事項を「技」として、学ばせたい事項を明確化した。そして、児童には本単元本時において「技」の「発見」を目指させ、「発見」した「技」を蓄積させている。「サイドラインを引く」「挿

絵と文章を結び

付ける」「年表を作る」「作者の考えや自分の考えをつぶやくとして称して短い言葉でまとめ」「叙述を動作化する」等。

低学年では「音読」を宿題とし、高学年では「予習」を宿題として、授業中の「交流の時間」を確保し「深い学び」を目指している。

月曜日の朝学習の時間（15分間）を「国語のまなび」の時間とし、①音読②視写③伝え合いの5分ごとのパート学習に取り組んでいる。



自分の考えをしっかりと持ち、  
お互いに伝え合い高め合う児童の育成  
～各教科・領域の授業を通して～  
仏子小学校

一 主題設定の理由

本校では県学調の結果、学校評価、教職員への意識調査を受け、児童を主体的・能動的に学習に参加させることが課題であり、そのために授業改善を図ることを研究のテーマとした。

二 研究の柱

①校務分掌の各部を中心に教師が主体的に各教科の研究を進めることで、教師の授業力向上を図り、教師の自己実現を目指す。

②従来の評価を見直し、学習指導要領に沿った評価を研究・実践していくことで、授業の質を高めていく。

三 目指す児童像

- ・ 見通しをもって授業にのぞみ、主体的に学習する。
- ・ 自分の考えを持ち認められることで学ぶ喜びを感じる。
- ・ 話し合いを通して自分の考えを伝え、多様な価値観に触れることで考えが深まる。

四 手立て

- ①各教科でスタンダードをつくる。
- ②各教科で問題解決型の授業を展

開する。

③研究授業を通して教師の自己実現を図る。※研究が一過性のものになるのではなく、教師の一生の財産になるように。



- ④授業評価を行う。
- ⑤児童に対する評価を研究・実践する。※すべての授業で全児童に丸付けをすることを目標に。
- ⑥評価の研修を行う。

五 成果と課題

- ①成果
  - ・ 算数、道徳、学級活動のスタンダードを作成し、各クラスで実施できるようになった。
  - ・ 研究授業、研究協議を重ね、国語と社会のスタンダードができた。
- ②課題
  - ・ 国語、社会のスタンダードを全クラスで活用していく。
  - ・ よい授業をすることで児童の伸びにつなげていく。

# 「主体的・対話的で深い学びにより、 資質・能力を育む教育の実現」

豊岡中学校

## 一 主題設定

本校では、新学習指導要領の完全実施、GIGAスクール構想によるタブレット導入を踏まえ、生徒が主体的・対話的に活動できる授業を目指す。継続して研究を行っている「学び合い学習」を中心として、タブレットをどのように活用できるか、「振り返り」を中心とした評価の研修を行った。

## 二 研究の視点

本年度の視点は、研究グループを以下の3グループに分け研究を進める。

- ① 振り返り及び きく つなぐ もどすチーム
  - ② 学び合い研究チーム
  - ③ タブレット研究チーム
- すべての職員が3つのグループに分かれて研究を進めた。

## 三 授業実践

① サテライト授業  
職員全員が、研究の3つのテーマに沿って授業デザイン案を用意し、研究授業及び研修を行った。

② フォーカス授業



観および研修会を行った。

## 四 成果と課題

### 成果

- ・ 研究を通して職員の同僚性を高め、継続的に研修を行っている「学び合い学習」を着実に推進できている。
- ・ 新学習指導要領に沿った「主体的に学習に取り組む態度」の評価、「タブレットの活用」の研究が進展した。

### 課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症のため、積極的な「学び合い学習」を行うことができなかった。
- ・ タブレットのより効果的な授業を研究する必要がある。



# 生徒の主体的な学びを育む指導法の工夫

「タブレット端末の活用を通して」

上藤沢中学校

## 一 主題設定の理由

本校の生徒は、落ち着いて学ぶことができないが、主体性にはやや欠けるところがある。

タブレット端末をはじめとするICTを活用することで、主体的な学びを実現したいと考え、本研究主題を設定した。

## 二 研究の取組

### ① ICT活用のための職員研修

- ・ 東京工業大学名誉教授 赤堀侃司先生による講演
- ・ (株)ベネッセによるミライシード操作研修
- ・ ZOOM操作研修(基礎・実践)
- ・ マスチャネル社による授業で使えるiPad用アプリ研修
- ・ Googleフォーム作成研修
- ・ 本校にあるICT機器(Apple TV等)操作研修
- ・ マスチャネル社による授業動画撮影・配信研修

### ② タブレット端末を活用した授業実践(各教科、学級活動、総合、道德)

- ・ Pagesを用いて、表現の工夫を学ぶ授業(国語)

### ③ 今後の取組

- ・ Geogebraで、比例の特性を見つける授業(数学)
- ・ 実験結果を、Numbersでグラフにして、気づいたことを発表する授業(理科)
- ・ カメラ、ビデオ機能を用いての実験の記録や観察(理科)
- ・ 跳び箱の演技を動画で撮り合いアドバイスを行う授業(体育)

### ④ 授業以外でのタブレット端末の活用

- ・ 試合を撮り、反省会で活用(部活動)
- ・ ZOOMによる補習授業(数学・英語)
- ・ テスト前の補習授業として、教師自作の動画配信(理科)
- ・ ZOOMによる中継学習(校外学習事前学習・生徒会選挙応援演説・薬物乱用防止教室など)



実践をタブレット活用実践事例集としてまとめ、継続した研究ができるようにしていきたい

## 皆と協力しながら自分の思いを表現できる

### 生徒の育成 ～主体的・対話的で深い学びの

授業実践を通して～ 東町中学校

#### 一 主題設定の理由

本校生徒の課題として、自己肯定感の低さが挙げられている。この課題を解決するためには、「主体的・対話的で深い学び」を追究する場面を全教科で積極的に実践していくことと捉え、研究を進めている。

#### 二 取組

##### ① 研究チームでの具体的な方法の検討と提案

授業研究チーム、調査環境チーム、表現向上チームの三つのチームで研究内容を精査し実践を進めた。

##### ② 研修会で方向性の周知

研修会の全体会で方向性を周知し、各研究チームで実践、成果と課題について考察することができた。

##### ③ 調査活動の実施

各研究チームで生徒にアンケートをとり、実情を把握し、具体的な方策をとって実践した。

##### ④ 授業研究会と実施と検証

二つの視点による研究授業の実施

・自分で考え、表現し、話題や趣旨を理解することができると。

・タブレットの効果的な使用ができる。

##### ⑤ 校内研修の充実

研究推進委員会、全体研修会、分科会、指導者を招聘しての研修会に分けて行った。

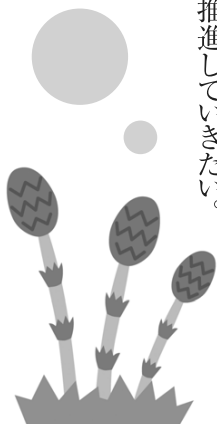
##### ⑥ 教師全員の研究授業の実践

各教師が、指導方法の改善に努めた。

#### 三 成果と課題

全教科で、授業の実践に向けて研究チーム毎に取り組み、教員側のスキル向上につながった。特にICTを活用した授業では、生徒同士の意見交換やプレゼンテーションスキルが向上した。

今後も、現状を見直し、実践、評価、見直しにつながるような取組を推進していきたい。



# 研究部研究の成果

## 書写

高倉小

書写研究部では、例年二つの展示会を中心に活動しています。今年度も感染症対策のため、展示会は行わず、誌上展となりましたが、先生方に協力いただき、審査会は実施することができました。

『入間市硬筆審査会』六月十六日に入間市教育センターで開催しました。第二次審査では、各学校から選ばれた作品を書写主任の先生方が学年毎に分かれて審査を行いました。第二次審査では、二名の審査員の先生をお招きし、審査をしていただきました。審査員の先生方は、児童生徒の作品の良さを伝えてくださるとともに見るべきポイントを教えてください、書写主任の先生方も学びながら審査の手伝いをすることができました。また、今後の指導に役立つアドバイスをいただくことができました。

『入間市書きぞめ審査会』二月二十日に豊岡中学校で開催しました。硬筆審査会と同様に、それぞれの学

年の指導のポイントを学びながら審査が行われました。

実技伝達講習会も引き続き中止となりましたが、研修会の充実を図りながら今後も書写指導の向上に取り組んで行きたいと考えています。

## 理科

豊岡小

今年度の理科部会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、研究授業や夏の研修会は実施することができなかった。

ただ、「埼玉県科学教育振興展覧会」が、展示は行われないものの、今年度は市内と地区での審査と表彰は行われることになった。そのことを受け、入間市としても部会で集まり、審査を行った。

今年度はレポート形式での作品となり、校内審査を通った作品を部会の先生方で審査し、地区展に出品する作品を選出した。

審査の中で、他校の先生とも情報交換ができ、科学展の作品としての重要なポイントや、理科への探求心



を高める取り組みなど、理科部会として大切な知識を共有できた。

来年度の科学展は、展示が行われる可能性もあるため、来年度へ向けての動きの確認も行った。

今後は、研修会の実施も視野に入れ、これからも児童・生徒の、理科への学習意欲の向上を目指していきたい。

## 体育・保体

野田中

今年度はコロナ禍の中で、できる範囲でできることを行った。

小学校では、西武小学校で西部地区の授業研究会を開催した。「運動のおもしろさを夢中で味わう西武つ子の育成」と研究主題を設定した。低学年ではボールゲーム、中学年ではタグラグビー、高学年ではハンドボールを行った。

中学校では、西武中学校で授業研究会を開催した。「ICT活用を通して協同的に課題発見や課題解決を図る指導の工夫」陸上競技「ハードル走」の学習を通して」という研究の柱を設定し、授業を行った。

今後、ギガスクール構想が進む中、ICTをうまく活用しつつ、運動量

を確保し、運動好きの児童生徒を増やしていけるよう、研究をすすめていきたい。また、来年度は藤沢中学校で西部地区の授業研究会が行われるので、西武小学校の経験が連続性のもとなるよう、入間市体育科ワンチームで取り組んでいきたい。

## 家庭(小)

藤沢東小

今年度の活動としては、発明創意工夫展(審査のみ)や入間地区小学校家庭科教育研究会授業研究会を開催しました。

発明創意工夫展は昨年度、新型コロナウイルスの影響で中止となり、寂しい一年となりました。しかし今年度は各学校で校内審査を行い、各学校一点、計二六点の中から埼玉県発明創意工夫展に出品する作品を決めました。各学校で選ばれた作品はどれも生活を豊かにさせるような便利なものばかりでした。

入間市立新久小学校で行われた入間地区小学校家庭科教育研究会授業研究会では、六年生のナップザック作りを授業公開していただきました。昨年度から入間市に導入されたタブレットのミライシードを使っ

て、子供たちが次に何をしたらいいか考えながら楽しくナップザックを作っていました。

今年度はとても充実した二年となりました。二年間ありがとうございました。

## 外国語(中)

野田中

令和三年度は、引き続きのコロナ禍での例年の活動に様々な配慮事項を念頭に制約の元、英語科の先生方及び主任の先生方のご協力の元、活動を進めてきた。4月の主任会では、他市からの先生、初めての主任の先生方との顔合わせと昨年度の活動報告と引継を行った。その中で、全国大会までつながる英語弁論暗唱大会の取組が話題となり、県・全国大会の実施予定を踏まえ市内大会開催の準備を進めていくことになり、各主任の先生方とメッセージ機能の活用で協議を進めることができた。今回はライブ大会は避け、各校タブレット録画でのビデオ発表で審査員の各校ALITの先生方が持ち寄った。初めての取組で不安はあったが、英語科の先生方の指導のもと、生徒たちも一生懸命発表を行い熱い

思いが伝わる大会となり、またALITの先生方の大会開催に向けての協力添えも大きな支えとなった。向原中の授業研究は、指導案配信で行った。

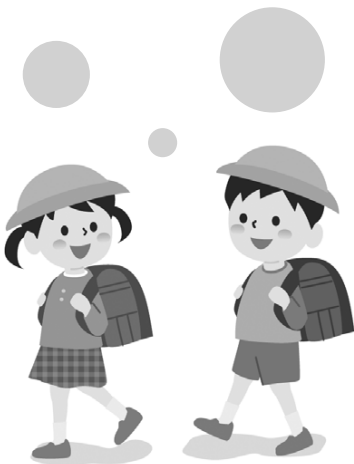
## 道徳

黒須小

昨年度はコロナウイルスの影響により、思うような活動を行うことができなかった。そのため、今年度は主任会で授業研究会をぜひ行いたいと話し合い、年間の活動を計画した。

しかし、デルタ株の流行もあり、今年度も授業研究会は中止せざるを得なかった。

授業担当校の宮寺小学校、向原中学校のご協力もあり、授業の様子をビデオ録画し、DVDを作成して、各校に配布する予定である。





配布後は、道徳主任を中心として各校の教職員にも授業を視聴してもらい、道徳科の授業力向上を図っていききたい。

また、それを基に道徳主任が授業の検討を行い、意見や感想を集約したものを授業者へフィードバックしていきたい。

今年度のコロナ禍における研究は非常に困難であったが、次年度以降、ビデオやズームなどを活用したオンラインによる授業研究会や意見交換会などについても実現が可能か検討していきたい。

## 情報

仏子小

底上げにつながった。

また、タブレット端末にインストールされているアプリケーションの効果的な活用方法を各校で検討し実践してきた。児童生徒の学習意欲向上や情報活用能力育成に意義あるものとなった反面、コロナ禍ということもあり、学校間での情報共有を密に行うことができず、活用度合いに学校ごとに多少の差が生まれてしまった。そのため、全市共有サーバーを利用した情報共有の方法を模索しているところである。さらに、二月にはAPPLE社の講師を招き、タブレット端末の使い方などの指導を受けることを予定している。

## 教務

仏子小

コロナ禍ということもあり、今年度も集合型の研修会は実施を見送ったものの、市教研の理事研修会や校務支援のメッセージで情報交換ができたことが有意義であった。通知表、保護者会、運動会、社会科見学、水泳、教科書・教材等の話題で教務主任の横のつながりできたことは教務部会の財産である。

また、例年のように二月の研究協議会においては、①今年度の反省、②次年度年間行事予定の確認等を行った。年間の授業日数や行事日程のすり合わせを行い、各校の年間行事予定を調整することができた。

また、各校で懸案となっている年間の授業時数の設定等について議論し、実践や案を出し合うことで、より効果的で合理的な授業時数の設定について共有することができた。

来年度も引き続き、校務支援システムを活用した情報交換等を通して教務に係る業務の充実を図っていきたい。

## 特別支援教育

東町小

今年度は、夏に新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、入間わかくさ高等特別支援学校にて、学校の取り組みや進路先、施設見学などの研修を行うことができた。また、2月には、教育心理相談部及び特別支援教育研究部合同公演会も予定しており、特別な支援が必要な子供への具体的な内容について理解を深めていく。

美術展は、例年通りに開催することとは難しく、今年度も中止になった。

## あとがき

入間市研究委嘱校、並びに各研究部の特徴が凝縮された会報が出来上がりました。

コロナ禍で計画したことが急遽中止になったり、変更になったりと思うようにいかないことも多かったはずですが、その中で新たにズームを活用した学校研究発表会が実施されました。また、多くの会議がリモートで実施され、新たな形ができあがりつつあります。これらのことを確実に引き継いでいくことで、来年度以降の教育に新たな光が見えることでしよう。

原稿執筆にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

